

Hospitality

地域のホスピタリティを訪ねて



江津本町まち歩きイベント 「ふらり」への想い

ふらり実行委員 藤田 貴子
(ふじた・たかこ)

江津本町は、古くから江の川の舟運と日本海の海運の要所として栄え、寛文年間に上方航路が開かれると北前船の寄港地や天領米の積出港として川岸には4、50隻の帆船が林立し、浜田で入港を待ち合わせる船がある程の混雑ぶりであったと言われます。この川岸から町中に向けて多くの廻船問屋の蔵屋敷が軒を並べ、その中心を山陰道が貫き東は大森銀山、西は浜田へと向かっており、陸路、海路そして陰陽を結ぶ大動脈であった江の川の河の道などの交通接点として経済的な発展をし、当時は大森銀山に次ぐ石見第二の賑わいを見せる石州赤瓦の光り輝く天領の町でした。

私は江津本町の近くで生まれ育ったので、小学校6年間は毎日歩いて本町を通っていました。また、同級生も多く住んでいましたので古い小道が私達の遊び場でした。中学・高校と進学する頃には本町に行くことも少なくなり、興味や憧れは都会に向いていました。大学時代にイギリスのロンドンに留学する機会があり、ロンドンの古い町並みを活かした生活やそこで開催されるマーケット・ギャラリー、音楽イベントなど沢山の刺激に出会いました。私は学生時代、将来何がしたいのか?自分にどんな可能性があるかなど全くわからなかったのですが、ロンドンでの体験で『もし小さい頃にこんな環境が周りにあったら、私の将来や選択肢は変わっていたかも!?!』っと思い、そこで体験した事などを全て生まれ故郷である江津に持って帰りたい!と思ったのを覚えています。

それから県外に就職し、結婚と共に江津に帰ってきたときに改めて江津本町を訪れてみると、江戸時代の和風建

築に加えて、大正・昭和の洋風建築が入り交ざった素敵な町だと気づき、またその建物や街並みの歴史や解説を聞いたときに、江津にもこんなお宝があるのだ!と感動しました。しかし同時に、古くなり住んでいない建物は取り壊されて、歯抜けの様になっており、国道から入った地区は江津に住んでいる同世代の方には知られていない地区になっていると気づきました。そこで、有志でまずは江津本町に素敵な街並みが広がっていることを知っていただく!と、2006年本町の象徴的な洋風建築の旧郵便局の後ろの空き地を使って小さなマーケットと街歩きを開催することを企画しました。その時は本町では7店舗と小さな市でした。一番初めにこのイベントを20代~40代の有志でやりたいと町の方に相談した時、『とにかくやってみたらいい!ただ、続けることが大切だ!』っと言われました。そして今年も5月に11年目の江津本町ふらり歩きが開催されます。1回目7店舗だった市も今では約40店舗近くあつまり、本町に点在する歴史的な建物や古民家を借りてエリア全体でのイベントに成長しました。この11年の間に、旧郵便局や旧役場などが改修されました。イベントは、毎年テーマを決め『幕末・大正ロマン』などの時代に思いを馳せながら、スタンプラリーなどでまち歩きを楽しんで頂けるように企画しています。また、本町にはカフェやゲストハウスなどもでき、今では江津本町を知っている方が増えました。今後は知っていただくだけでなく、街の方と連携しながら未来につながるきっかけとなるイベントにしていきたいと思っています。

